



校長室だより

令和6年度

2月24日

NO. 46

自分の足で跳ぶ! 空に、春に、未来に...



自分の目標に向かって、あきらめずに、自分の力で跳ぶ秦梨っ子



春を告げる梅



健康委員さん主催の「縄跳び集会」



春を待つコブシ

季節は「雨水」(降っていた雪は雨に変わり草木も芽吹き始める時節)を過ぎ、暦では着実に春に向かっていきます。とはいえニュースは、これで何回目かの「最強寒波」の到来を、告げています。そんな中、玄関近くのコブシの芽は膨らみ、草木はこの寒さに抗うように、来るべき温かい春の準備を進めます。

玄関を入ったところにある、生け花の梅も、訪問者とともに春の訪れも迎えてくれます。梅は別名「句草」「春告草」。昔から、よい香りで春の到来を教えてください。秦梨小にある梅もまだまだ小さな蕾ながら、来る春を待ち焦がれています。

「縄跳び」も冬の季語ではありませんが、実際には春の俳句がたくさん見つかります。寒さに負けず体を動かす様子、冬の眠っている虫たちを起こす様子、春を待ちわびる気持ちなど、ちょうど今の時期の今の気持ちさが表されます。秦梨にとっても風物詩と言えるでしょう。実際、今年の縄跳び集会も寒い中でしたが、その寒さもものともせず、子供たちは躍動しました。

今年の縄跳び集会では、一人一人が目標をもって、その目標の達成に向けて、縄跳びに挑戦しました。集会に先立ち、子供たちは誰に言われるでもなく、縄跳びの練習を始めます。「二重跳びがたくさん飛べるようになりたい」「ハヤブサに挑戦する」「あや跳びを一番跳べるようになりたい」それぞれが、自分だけの願いを胸に、跳躍します。そしてそれは、失敗しても失敗しても何度も挑戦する、そんな気持ちの粘り強さや乗り越えようとする強さも育みます。一本の縄が、子供たちの体だけでなく、子供たちの心も育てます。

「跳ぶ」は、「飛ぶ」と違って自分の足で、跳び上がります。未来に向けて子供の足で、跳び立つ姿にも重なります。そんな子供たちの頑張る姿を、いつまでも大切にしていきたいです。

○玄関に生け花をいけてくださるのは、元河合中学校の校長先生であった荻須文裕先生です。学校のためにボランティアでいけてくださっています。お越しの際にはぜひご覧ください。

○17日には、河合中学校の入学説明会がありました。保護者の皆さま、ありがとうございました。